

ひょうご

—神と伝—

伝説紀行

# イザナギとイザナミの国造り

## 高天原、地上の世界、黄泉の国

伝説

イザナギとイザナミの国造り  
高天原、地上の世界、黄泉の国

紀行

古事記とオノコロ島伝説をめぐる

- ・オノコロ島はどこに
- ・淡路島か沼島か
- ・蛭子命が流れ着いた場所
- ・もうひとつの候補地
- ・『古事記』の歌の謎

関連情報

用語解説  
参考書籍  
所在地リスト

## イザナギとイザナミの国造り

### 高天原、地上の世界、黄泉の国

はるかな昔のことです。天上に、神様たちが住んでいる、高天原（たかまがはら）というところがありました。あるとき、神様たちが高天原から見下ろしてみますと、下界はまだ生まれたばかりで、ぜんぜん固まっていません。海の上を、何かどろどろ、ふわふわとした、くらげのようなものがただよっているというありさまでした。

「このままではいけない」

そう話し合った高天原のえらい神様たちは、イザナギノミコト、イザナミノミコトという二人の神様に、天沼矛（あめのぬぼこ）という大きな槍（やり）をあたえ、下界をしっかりと固めて、国造りをするようにと命じました。そこで二人は、高天原から地上へとつながる天浮橋（あめのうきはし）の上に立って、槍の先で、どろどろとした下界をかきまぜました。



「こおろ、こおろ、こおろ」

かきまぜるたびに、大きな音がひびいてきます。二人が天沼矛をすうっと引き上げると、槍の先からぽたぽたと落ちたしずくは、みるみるうちに固まってひとつの島ができあがりました。ひとりで固まってできあがったので、この島のことを「おのころ島」といいます。

イザナギとイザナミは、さっそくおのころ島へとおりてゆきました。

二人の神様は、おのころ島の上にはりっぱな御殿（ごてん）を建てて、そこで結婚（けっこん）の儀式（ぎしき）をしました。こうして、最初に生まれたのが淡路島（あわじしま）で、その後、四国や、九州や、本州や、そのほかのたくさんの島々が生まれました。

島ができあがると、妻のイザナミは、それぞれの島を治める神様を生みました。それに続いて、石や土の神様、家の神様、風の神様、川や海の神様、山の神様と、たくさんの神様が生まれてきましたが、火の神様を生んだとき、イザナミは大やけどをしてしまいました。



大やけどに苦しみながら、イザナミはなおも、粘土（ねんど）の神様や、水の神様、鉾山（こうざん）の神様などを生みました。無理を重ねたイザナミの体は、みるみるうちに弱ってゆきます。イザナギはけんめいに看病（かんびょう）をしましたが、そのかいもなく、イザナミはとうとう亡くなってしまいました。

「愛（あい）するおまえの命を、一人の子の命とひきかえにしてしまった」

イザナギは、イザナミのなきがらにとりすがって、ぼろぼろとなみだを流して泣きました。そしてイザナミを、出雲（いずも）の国と伯耆（ほうき）の国の境にある比婆山（ひばやま）にほうむりました。イザナギは、妻に大やけどをおわせた火の神のことを、どうしても許すことができず、とうとう、剣で切り殺してしまいました。

イザナミが亡くなってからしばらくの間、イザナギは一人で悲しんでいましたが、どうしてもがまんすることができなくなりました。そこで、死者の国まで妻をむかえに行こうと思いたちました。死者の国は、黄泉（よみ）の国といって、深い地の底にあるのです。

イザナギは、地の底へと続く長い暗い道を下りて行きました。ようやく黄泉の国に着くと、イザナギはとびらの前に立ち、イザナミに、自分といっしょに地上へ帰ってくれるよう、優しく呼びかけました。

「ああ、愛する妻よ、私とおまえの国造りは、まだ終わっていないのだよ。どうかいっしょに帰っておくれ」ところが中からは、イザナミの悲しそうな声が帰ってきました。

「どうしてもっと早く来てくれなかったの。私は、もう黄泉の国の食べ物を食べてしまいました。ですから、地上へはもどれないのです。けれども愛するあなたのためですから、地上へ帰ってもよいかどうか、黄泉の国の神様にたずねてみましょう。それまで、私の姿を決してのぞかないでくださいね」

そう言われて、イザナギはじっと待っていましたが、いつまでたっても妻からは返事がありません。とうとう待ちくたびれたイザナギは、小さな火をともし、妻を探すために黄泉の国へと入っていったのです。

黄泉の国は、どこまでも真っ暗なやみが続いています。うす暗い灯りをもって、目をこらしていたイザナギは、思わず「あっ」とさけんで立ちつくしました。何とそこには、くさりかけてうじ虫がいっぱいたかっている、イザナミの体が横たわっていたのです。おまけにその体には、おそろしい雷神（らいじん）たちがとりついてい

「あれほどのぞかないでと言ったのに、あなたは私にはじをかかせましたね」  
自分のみにくい姿をのぞかれてしまったイザナミは、かみの毛を逆立ててすさまじくおこりました。

「イザナギをつかまえて、殺しておしまい」  
イザナミがそう命令するや、黄泉醜女（よもつしこめ）という悪霊（あくりょう）たちが、イザナギをつかまえようと、あちらからもこちらからもわき出るように現れました。



イザナギは地上へ続く黄泉平坂（よもつひらさか）に向かって、必死ににげました。イザナミと黄泉醜女たちは、すさまじい勢いでせまってきます。イザナギはけんめいに走りながら、かみに結んでいたかざりを放り投げました。するとかみかざりからはたちまち野ブドウの木が育って、たくさんの実がなりました。それを見た黄泉醜女たちは立ち止まって、実を食べ始めましたので、そのすきに、イザナギはどんどん走りました。けれどもしばらくすると、また悪霊たちが追いついてきます。イザナギは、こんどはかみにさしていたくしを放り投げました。すると、そこからはたけのこが次々に生え、黄泉醜女たちはまた立ち止まって、食べ始めました。

こうしてけんめいににげるイザナギの行く手に、ようやく地上の世界が見えてきました。しかし黄泉醜女たちは群れをなして追いついてきます。イザナギは片手に持った剣を後手にふり回して防ぎながら、ようやく坂のふもとまでたどり着くと、そこに生えていた桃（もも）の木になっていた実を三つもぎとって、黄泉醜女たちに投げつけました。すると、桃の実がもっている不思議な霊力（れいりょく）におそれをなした黄泉醜女たちは、みんなにげ散ってしまいました。

けれどもイザナミは、まだ恐ろしい顔でせまってきます。ついにイザナギは、黄泉平坂に、千人がかりでないと動かせないような大岩を引っ張ってきて、それで黄泉の国と地上の世界の間をふさいでしまったのです。

追いかけてきたイザナミは、岩の向こうから大声でさげびました。

「これからは、あなたの国の人を、一日に千人ずつ殺しますからね」

「それならば、地上では一日に千五百人ずつ子供が生まれるようにするよ」

イザナギは答えました。

こうして二人は別れ別れになり、地上の世界と黄泉の国とは、永久に行き来できない石のとびらでふさがれてしまったのです。けれどそれからというもの、亡くなる人よりも生まれる人の方が多くなり、地上の人は次第に増えるようになったのだそうです。



イザナギとイザナミの国造り 高天原、地上の世界、黄泉の国  
おわり

## 紀行「古事記とオノコロ島伝説をめぐる」

### オノコロ島はどこに

日本神話の中で、オノコロ島は特別な島である。神様が日本の島々を作ったとき、最初にできた島だからである。そもそもオノコロ島というのは、数多い列島の中でどの島なのか。それともあくまでも空想上の島で、現実には存在しないのか。古くからいくつもの説が出されてきた。

兵庫県の淡路島には、自凝島神社（おのころじまじんじゃ）がある。それだけではなく、淡路島の南西に浮かぶ沼島にも自凝神社（おのころじんじゃ）があって、そのどちらにもオノコロ島の発祥地だとする考えがある。それだけではない。播磨灘（はりまなだ）を隔てた家島こそがオノコロ島だという説も、実は根強く存在する。

いずれが正しいかを判定するのは、到底僕の手には負えない仕事だけれど、「日本発祥の地」を探す旅はそれだけで十分魅力的で、何だか解けない謎を追う探偵のような気分させてくれるのだ。

### 淡路島か沼島か



榎列自凝島神社  
（鳥居）



榎列自凝島神社  
（拝殿）



榎列自凝島神社  
（看板）



せきれい石



榎列自凝島神社  
（拝殿）



たくさんの  
願い事

淡路島は、島をあげて「淡路 = オノコロ島説」を主張している。その舞台のひとつが自凝島神社だろう。南あわじ市榎列（えなみ）の自凝島神社は、国道28号線の円行寺（えんぎょうじ）から北西へ、三原川に沿って1.5kmほど行った所にある。

巨大な鳥居をくぐり、階段を登ると、思ったよりも質素な社殿が建っている。ここにお祭りされているのは、もちろんイザナギノミコト・イザナミノミコトである。神社の周辺には、「天浮橋（あめのうきはし）」や「芦原国（あしはらのくに）」など、国産みの物語にちなむ場所がお祭りされている。

現在は、周囲はかなり市街地化しているが、かつてはどうだったのだろう。



浮橋の石



天浮橋



浮橋の石

淡路島には伊弉諾神宮（いざなぎじんぐう）もある。淡路市一宮町多賀にあるこの神社は延喜式内社（えんぎしきないしゃ）で、やはりイザナギノミコト・イザナミノミコトがお祭りされている。本殿の下には、イザナギノミコトが葬られた古墳があるとも伝えられていて、オノコロ島であると同時に、神様の永眠の地でもあるそうだ。深い森は、いかにもその地にふさわしく思える。



伊弉諾神宮（参道）



伊弉諾神宮（門）



伊弉諾神宮（拝殿）



淡路名所図絵

さて、「オノコロ神社」は、実はもう一つある。淡路本島の南西に浮かぶ、沼島（ぬしま）にある自凝神社である。南あわじ市灘の土生（はぶ）にある港から、連絡船に15分ほどゆられると、沼島港に着く。そこから港に沿って南へ歩き、細い山道を、息を切らしながら10分ほど登った尾根の上に、自凝神社がある。沼島は空から見ると、ちょうど勾玉（まがたま）のような形をしているが、自凝神社はその一方の先端にあると思ってもらえばよい。

小さな神社である。特別な飾りも、目立つ鳥居もなく、ただ質素な社殿が雑木林に囲まれてひっそりと建っている。社殿の背後へ続く道を歩くと、淡路島の南部から四国までのすばらしい展望が開ける。

沼島の港から、家の間を抜ける細い道を行くと、やがて島の中ほどの丘を越えて、島の東側の海岸に出る。ちょうどその海岸にあるのが上立神岩（かみたてがみいわ）である。巨大な岩石が崩落してできた荒磯の先の海中に、天を裂くような三角形の先端を見せながら屹立（きつりつ）する巨岩である。高さが15mあるという岩は、イザナギとイザナミがオノコロ島に降り立ち、巨大な柱の周囲をまわって婚姻をおこなったという、「天の御柱」だともいわれている。



断崖の先に立つ岩



屹立する巨岩



本殿までの長い階段



イザナギとイザナミ

もちろん、長い自然の営みでできた巨岩の柱なのだろうが、そこに砕ける波頭を見ていると、あまりの雄大さに、神威を感じてしまうのも確かである。



上立神岩（看板）

沼島自凝神社（石碑）



## 蛭子命が流れ着いた場所

淡路島の北端、岩屋港の傍には、岩楠神社（いわくすじんじゃ）がある。この神社にはイザナギノミコトとイザナミノミコト、そして二人の間に最初に生まれた、蛭子命（ひるこのみこと）が祭られている。蛭子命は、体がうまくできあがっていなかったために、葦舟にのせられて流されてしまったという神様である。港に向かって建つ鳥居をくぐると、まず戎神社（えびすじんじゃ）の社殿が目に入るが、岩楠神社は、実はその裏にある。

戎神社の背後には、高さ十数メートルの岩壁があり、そこに洞窟が二つ開いている。その一つに岩楠神社がお祭りされているのだ。地元では、ここがイザナギノミコトの墓所だと伝えられているそうだ。洞窟の入り口に設けられた格子の隙間からうかがうと、暗闇の中に石造りの小さな祠（ほこら）がぼんやりと見えて、まるでその先に黄泉の世界が続いているような感覚にとらわれてしまう。

これだけ、伝説にゆかりの場所がそろると、淡路島＝オノコロ島説が信憑性を帯びてくるように思うのだが、実は、兵庫県にはもう一つ、オノコロ島を主張する場所があるのだ。



岩楠神社（看板）



戎神社の鳥居



岩楠神社



洞窟に祭られる



洞窟の奥の祠

## もうひとつの候補地

淡路島から播磨灘（はりまなだ）を隔てて、およそ30km西にある、家島がそれだ。家島という名のいわれは、神武天皇が日向から大和へと攻め上るとき、家島に船を泊め、「まるで家にいるように静かだ」と言ったことに始まるという。天皇はここで天津神（あまつかみ）を祭り、武運を祈ったそうである。後には、神功皇后が三韓（新羅・百済・高句麗）へ出発するとき、ここで天神を祭ったとも伝えられている。



家島神社  
（遠景 海上から）



海上から見た鳥居



家島神社（本殿）



家島神社（境内）

神武天皇や神功皇后の話を、歴史的事実として取り扱うことはできないが、このような伝承が生まれるほど、この地が古くから崇敬の対象であったことは間違いないだろう。

播磨灘に浮かぶ家島は、確かにオノコロ島に相応しい島の一つだと思える。

オノコロ島は、淡路島、またはその一部か。それとも北淡路の海辺に浮かぶ絵島か、あるいは沼島か。「自凝島」が淡路島だとすると、神話の中で自凝島の後に「淡路島を産んだ」と書かれている点をどう考えるのか。やはり家島が自凝島なのか。



家島神社（看板）



家島神社  
（鳥居）

## 『古事記』の歌の謎

古事記の中に、仁徳天皇が詠んだという歌がある。

『ここに天皇、その黒日賣（くろひめ）を恋ひたまひて、大后（おほきさき）を欺きて曰らさく、「淡道島を見むと欲（おも）ふ。」とのりたまひて、幸行（い）でましし時、淡道島（あはじしま）に坐（いま）して、遙（はろばろ）に望（みさ）けて歌ひたまひて曰く、おし照るや 難波の崎よ 出で立ちて 我が国見れば 淡嶋（あはしま） 淤能暮呂嶋（おのころしま） 檳榔（あぢまさ）の 島も見ゆ 放（さけ）つ島見ゆとうたひたまひき』

天皇がクロヒメに浮気心を起こしたことはともかく、「淡路島に坐して」歌ったという点は注目に値する。「オノコロ島が見える」と歌われているからには、「オノコロ島」は、淡路島から見える島だったということになるからだ。

最後の「さけつ島」は、はるかに離れた島、あるいはぼつんと離れた島というほどの意味だろうが、おのころ島の前に登場する「淡島」は、現在の何島にあたるのだろうか。また檳榔（あぢまさ）はヤシ科の植物で、現在はピロウと呼ばれているそうであるが、これはかなり暖地性の植物で、現在の大阪湾周辺には生育場所がないようだ。

国産み神話では、蛭子神の次に生まれたのが淡島であり、これも満足な子ではなかったため、イザナギ、イザナミ両神の子として数えないとされているが、もしかすると歌にでてくるのは、この淡島なのだろうか。そうすると、仁徳天皇の歌に出てくる島のうち、淡島や檳榔島は、現実には存在しない＝見えない島だったかもしれないとも思えてくる。だとすると、この歌で「見ゆ」と詠まれた「オノコロ島」も、本当は見えなかったのではないか、見えたのははるか彼方の「さけつ島」だけで、他の島々は、天皇の心の中だけで見えた島だったかもしれない。

オノコロ島は、はるかな祖先たちが自分たちの故郷を心に思い描いた、伝説の中だけに生きる島だったのだろうか、それとも・・・。



## 用語解説

### オノコロ島（おのころじま）

「自凝島」と表記する。記紀の神話では、日本で最初にできた島とされる。その内容は、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）・伊弉冉尊（いざなみのみこと）の二神が、天浮橋（あまのうきはし）に立ち、天沼矛（あまのぬぼこ）で海をかき回して引き上げたとき、矛の先からしたたる潮が固まってできたというものである。空想上の島であるのか、現実の島のいずれかに擬せられていたのかは不明であるが、現在、兵庫県の淡路島、沼島をはじめ数か所をオノコロ島にあてる考えがある。

### 淡路島（あわじしま）

瀬戸内海東部に位置し、大阪湾と播磨灘を画する、瀬戸内海最大（日本列島第11位）の島。面積は596平方キロメートルで、兵庫県土の7.1%を占める。島北端と本州の間は明石海峡、島南端と四国の間は鳴門海峡。島の北半部では、南北にのびる山地が島を東西に分け、南部にも島内最高峰の諭鶴羽山（ゆづるはさん：標高608m）を中心とした山地があって、平野は、両地域の間を流れる三原川（みはらがわ）流域に広がっている。

島内の行政区画は、北部の淡路市、中部の洲本市、南部の南あわじ市からなり、3市を合計した人口は、2007年現在で約153,600人となっている。

### 沼島（ぬしま）

淡路島の南海上にある、東西1.8km、南北2.5kmの島。行政区画上は南あわじ市に属する。沼島の名称は、紀貫之の『土佐日記』（成立は10世紀前半）にも見えるという。

### 家島（いえしま）

家島群島は播磨灘北西部に位置し、大小40余の島からなる。家島の地名は、『播磨国風土記』にも見える。島名は「えじま」と言いならわされていたが、昭和3（1928）年に町制が施行された際には、「いえしまちょう」と定められた。平成18（2006）年に姫路市に合併された。

### イザナギノミコト・イザナミノミコト（いざなぎのみこと・いざなみのみこと）

記紀神話で、日本の国土を産んだとされる男女の神。イザナミノミコトが、火の神を産んだ際に火傷を負って亡くなり、イザナギノミコトがそれを追って黄泉国（よみのくに）を訪ねるといふ物語は著名である。黄泉国から戻ったイザナギノミコトが、楔（みそぎ）をした際に生まれたのが、アマテラスオオミカミ、ツクヨミノミコト、スサノオノミコトで、その後の記紀神話の重要な位置を占める。

### 式内社（しきないしゃ）

『延喜式』の「神名帳」に掲載されている神社。全国で2,861か所。

### 上立神岩（かみたてがみいわ）

沼島東岸にある、高さ15mの巨岩（\*）。先端が鋭く尖っており、国産み神話に登場する「天の御柱」にあてる伝説がある。（\*上立神岩の高さについては、兵庫県大百科事典上に従った）

## 用語解説

### 天の御柱（あめのみはしら）

国産み伝説に登場する柱。天に届くほどの柱を意味するとされる。イザナギとイザナミが婚姻する際、左右からこの柱を廻り、両者が出会った所で声をかけ合ったという。

### 蛭子命（ひるこのみこと）

日本神話に登場する神。蛭子神、水蛭神と同じ。イザナギとイザナミの間に最初に生まれた子であったが、婚姻の際、イザナミが先に声をかけたのが原因で、満足のゆく子にならなかったため、葦舟に乗せて流されてしまったと伝える。蛭子命と2番目に生まれたアワシマは、2神の子には数えないとされている。後に蛭子神は、恵比寿（戎：えびす）と同一視され、信仰の対象となった。

### 播磨灘（はりまなだ）

兵庫県の播磨地域に面する、瀬戸内海東部の海域。東を淡路島、西を小豆島（しょうどしま）、南を四国によって画かれている。面積は約2,500平方キロメートル。近畿、中国、四国、九州を結ぶ重要な航路がある。

### 神武天皇（じんむてんのう）

記紀に登場する初代の天皇。和風諡号（しごう：死後に贈られる名）は、神日本磐余彦命（かむやまといわれひこのみこと）。記紀によれば、日向（ひゅうが：現在の宮崎県地方）から軍勢を率いて東征し、大和を征服。紀元前660年に橿原宮（かしはらのみや：奈良県橿原市）で即位して初代天皇となったという。初めて国を統治した天皇という意味で、ハツクニシラススメラミコトとも呼ばれる。

ただし天皇に関する記紀の記述のうち、特に初代神武天皇から第9代開化天皇までの記事は、合理性を欠く部分が多い上、系譜はあるものの旧辞（きゅうじ：記紀編纂の基礎となった史書。現存しない）に記されていたはずの事跡も記載がなく、生存の年代観も実際の歴史と整合しない。このためこれらの天皇は、朝廷の権威と支配を正当化するために付け加えられたものであり、いずれも実在ではないと考えられる。

### 天津神（あまつかみ）

記紀神話で、神の国である高天原（たかまがはら）にいた神。高天原から日本国土へ降ってきた神、およびその子孫の神も天津神と呼ばれる。これに対し、元から地上にいた神を国津神（くにつかみ）と呼ぶ。

### 神功皇后（じんぐうこうごう）

『日本書紀』によれば、第14代仲哀天皇（ちゅうあいてんのう）の皇后。名を息長足姫尊（おきながたらしひめのみこと）という。仲哀天皇の死後、これに代わって朝鮮へ出兵して、新羅を討ち、百済・高句麗を帰服させたとされるが、これは日本を大国として位置づけるための架空の説話である。

### 古事記（こじき）

奈良時代に成立した歴史書。全3巻からなる。天武天皇（てんむてんのう）の命により、稗田阿礼（ひえだのあれ）が記憶していた歴史を、太安万侶（おおのやすまろ）が採録したという。天皇家の系譜を明らかにするという、政治的目的をもって編集されたもので、歴史書としては、日本に現存する最古のものである。

## 用語解説

仁徳天皇（にんとくてんのう）

第16代の天皇。『日本書紀』によれば290～399年の人物であるが、歴史上は5世紀前半の大王であったとされている。「倭の五王」として、中国の史書『宋書』、『南史』に記載された讚（さん）または珍（ちん）、『梁書（りょうしよ）』に記載された、賛（さん）または彌（み）に比定する見解がある。難波（現在の大阪市）に都を置いたとされ、陵墓は堺市の百舌鳥古墳群（もずこふんぐん）にある大仙（大山）古墳とされている。

檳榔（あじまさ）

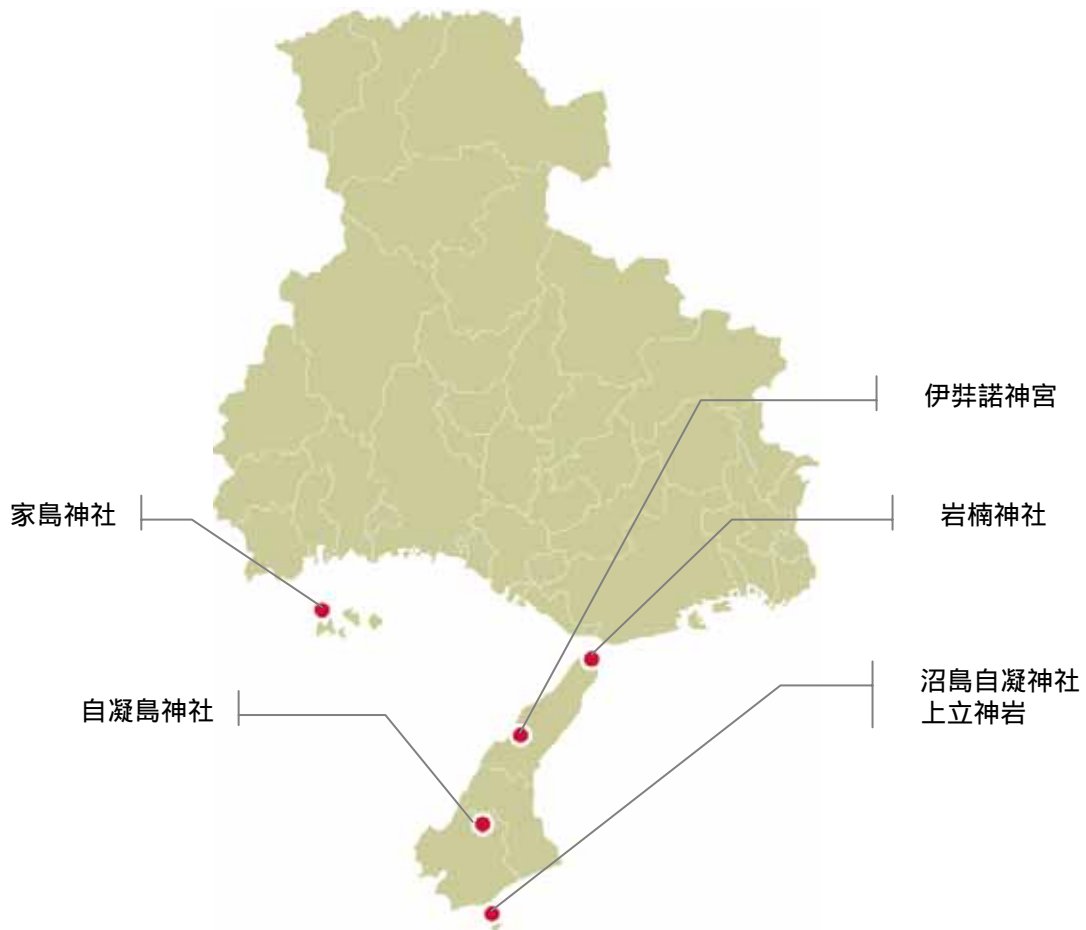
現代語ではピロウと呼ばれる。学名はLivistona chinensis。ヤシ科の常緑高木。ピンロウと混同されることがあるが別種である。東アジアの亜熱帯に分布し、日本列島での北限は福岡県沖ノ島である。

古代には神聖視された植物で、現在でも、大嘗祭（だいじょうさい：天皇が即位した後初めておこなう、その年の収穫に感謝する祭祀（さいし））においては、天皇が禊（みそぎ：身を清めるための儀式）をする百子帳（ひやくしちょう：祭祀をおこなうための小屋）の屋根材として用いられている。

## 参考書籍

	書籍名	刊行年	著者名	発行者
伝説	古事記物語	1988	高野正巳	ポプラ社
	少年少女古典文学館第一巻 古事記	1993	橋本治	講談社
歴史・文化	家島群島 家島群島総合学術調査報告書	1962	家島群島総合学術調査団編	神戸新聞社
	日本古典文学大系67 日本書紀 上	1967	坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注	岩波書店
	日本思想体系1 古事記	1982	青木和夫・石母田正・佐伯有清 校訂	岩波書店
	兵庫県大百科事典(上・下)	1983	神戸新聞出版センター	神戸新聞出版センター
	扇 - 性と古代信仰 -	1984	吉野裕子	人文書院
その他	原色日本植物図鑑木本編	1979	北村史郎・村田源	保育社

## 所在地リスト



家島神社	姫路市家島町宮991
岩楠神社	淡路市岩屋925
伊弉諾神宮	淡路市多賀740
自凝島神社	南あわじ市榎列下幡多415
沼島自凝神社	南あわじ市沼島73
上立神岩	南あわじ市沼島

ひょうご歴史ステーション「ひょうご伝説紀行」は、兵庫県立歴史博物館により管理・運営しております。サイトで使用するテキスト・画像などのコンテンツ全般の著作権は当館に帰属し、無断での複写・転用・転載などを禁止いたします。

ひょうご伝説紀行 神と仏  
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/legend2/>

編集発行 兵庫県立歴史博物館  
〒670-0012 兵庫県姫路市本町6-8 079-288-9011

第1刷 2008年4月1日